

菅波 茂

8月18日から2日間、ハイチの隣国であるドミニカ共和国の首都サントドミンゴにあり、アメリカ大陸で最も古い伝統を誇る1538年創立の聖トマス・アキナス大学を前身とする名門サントドミンゴ自治大学で、日本、ハイチそしてドミニカ共和国の少年たちによるサッカー親善交流試合と文化交流行事が実施された。

部口整形外科に留学経験のあるマック歯科医師だった。ないない尽くしの環境下での練習は昼食付だった。しかし、親善交流試合での赤いユニホームのハイチチームは思った以上に強かった。写真・石戸諭撮影。

それ以上にうれしかったのは、歴史的に仲の悪いドミニカ共和国とハイチの少年たちが、最初はぎこちなかったものの、日本の少年たちが参加した3カ国の交流が進むうちに仲良くなっていったことである。「子どもたち」に国境はなしだった。最終日には大阪の少年チームからはガンバの紹介とグッズ、広島少年チームからはサンフレッチェの紹介とグッズがハイチとドミニカ共和国の少年たちに贈られた。ちなみに、陰の主役は元気の良い青年海外協力隊の方々であったことも報告しておきたい。

ハイチは世界で最初の黒人による独立国家である。その後、ドミニカ共和国を占拠したが、反撃され撤退している。米国の反キューバ政策により独裁体制が続き内部から腐敗して最貧国として苦悩している時に、今回の大地震により国家統治機能が崩壊した。これを契機にドミニカ共和国側からハイチ支援の動きが出ている。両国が和解へと駒を進める最大の機会と判断。これがハイチ復興支援サッカー親善交流プログラム実施の別の意義である。10年間は継続したい。2011年はハイチの首都であるポルトープランスでの開催を考えている。

同時に、初日には四宮

ハイチ復興支援サッカー親善交流プログラム



信隆日本大使とハイチ大使の参加とあいさつをいただいた。石井正弘岡山県知事、湯崎英彦広島県知事、仲井真弘多沖縄県知事、そして秋葉忠利広島市長からは両大使へ平和のメッセージをいただいた。地方主権を中心とした道州制が実現されれば、被爆、戦禍、移民に加えて福祉などを柱とした州知事の外交が現実化

する。各県の姉妹縁組、移民、留学生、海外進出企業、NGO、NPOなどが各県の外交ネットワークとして機能する。また、道州制をふまえて、市民が、知事の外交の大義の下に、紛争地や被災地の人々と直接に交流して人間関係を構築する市民参加型人道支援外交の時代を感じる。

AMD Aが事業を実施してきた紛争や災害の被災地で、AMD Aの人道支援活動を支援していた方々が主役として活動するシステムが市民参加型人道支援外交である。外交のもう一つの目標は親日である。古い伝統を誇るサントドミンゴ自治大学にはサッカー以外にも剣道、柔道そして合気道などのクラブがあった。BBC放送の調査によると、世界で最も嫌われない国は日本とのこと。その日本がお世話役をした市民参加型人道支援外交の復興支援スポーツ親善交流モデル形成は大成功だった。ご協力を頂いた方々に厚くお礼を申し上げます。

最大のメッセージは「私たちはあなたが見放さない」である。メッセージの根拠は知事に代表される県の歴史にある。これを日本イニシアチブの世界平和への歩みと確信した